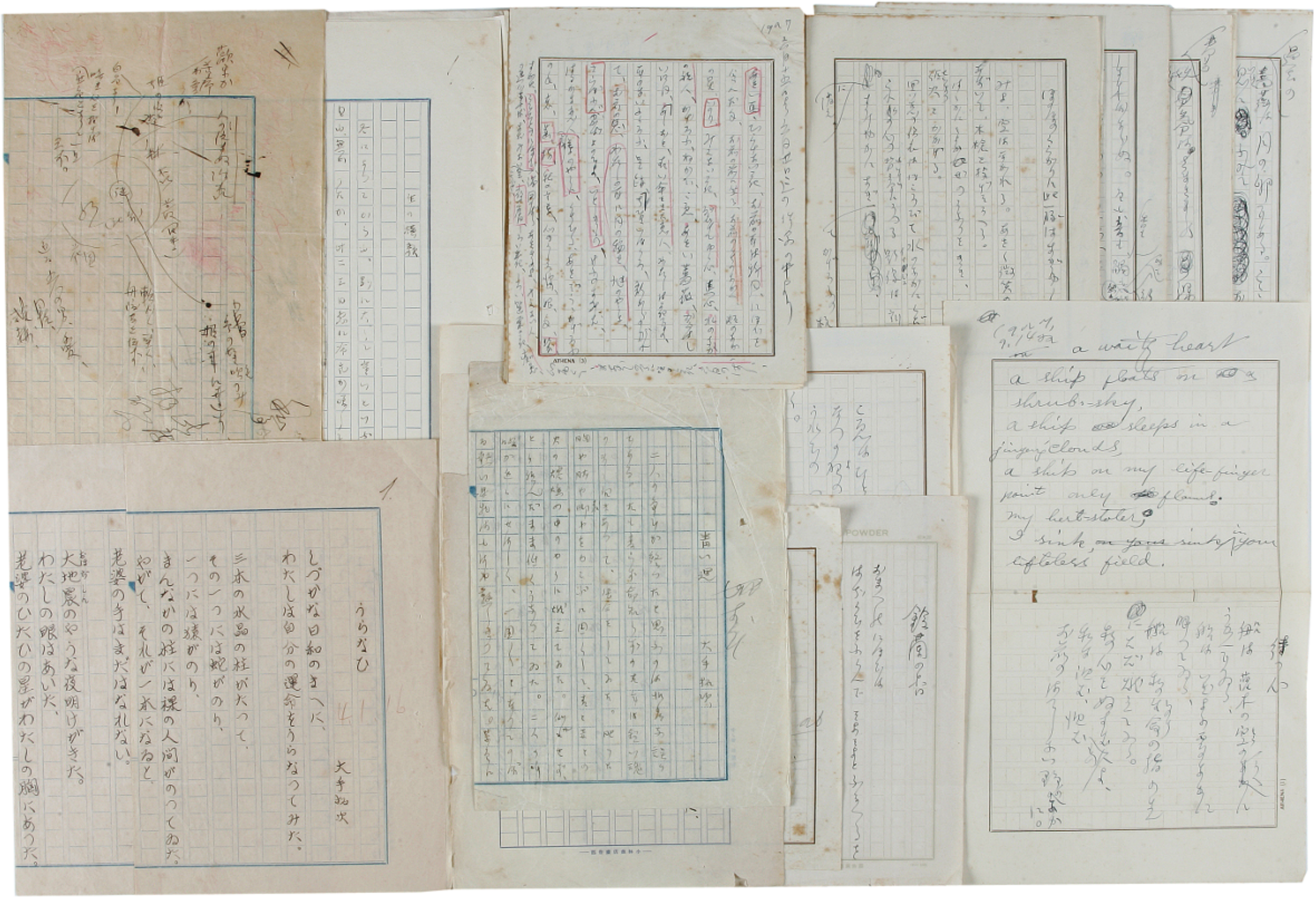
1947
1.
うらなひ
大手拓次
しづかな日和のまへに、
わたしは自分の運命をうらなつてみた。
三本の水晶の柱がたつて、
その一つには蛇がのり、
一つには猿がのり、
まんなかの柱には裸の人間がのつてゐた。
やがて、それが一本になると、
老婆の手はまだはなれない。
大地震のやうな夜明けがきた、
わたしの眼はあいた、
老婆のひたひの星がわたしの胸にあつた。
41.16
大手拓次
ATHENA (3)
POWDER
a waity heart
a ship floats on a
shrubs-sky,
a ship sleeps in a
fingery clouds,
a ship on my life-finger
point only flame.
my hert-stoler,
I sink, on yours sink in your
lifeless field.